

うるし原遺跡他発掘調査 現地説明会資料

主催： 三重県埋蔵文化財センター
開催日：令和8年1月17日（土）



線刻土器



モモ・クルミなどの種

うるし原遺跡 U1-2区



U1-2区では弥生時代終わり頃から古墳時代初め頃の流路がみつかりました。流路からは多量の土器や有機物（木片や木製品等）が出土し、この付近で当時の人々が暮らしていたことがわかります。土器は様々な形のものがあり、線で模様を描いた線刻土器もあり、県内では珍しいものです。土器以外ではモモやクルミ等の種や昆虫の遺骸もみつかり、当時の人々の食生活や生活環境を知る手がかりとなります。

調査遺跡名：うるし原遺跡他
所在地：三重県伊勢市磯町
調査面積：2,875㎡（予定）

原因事業名：令和7年度高度水利機能確保基盤整備事業（磯地区）
調査実施機関：三重県埋蔵文化財センター
調査期間：令和7年9月16日～令和8年3月11日（予定）



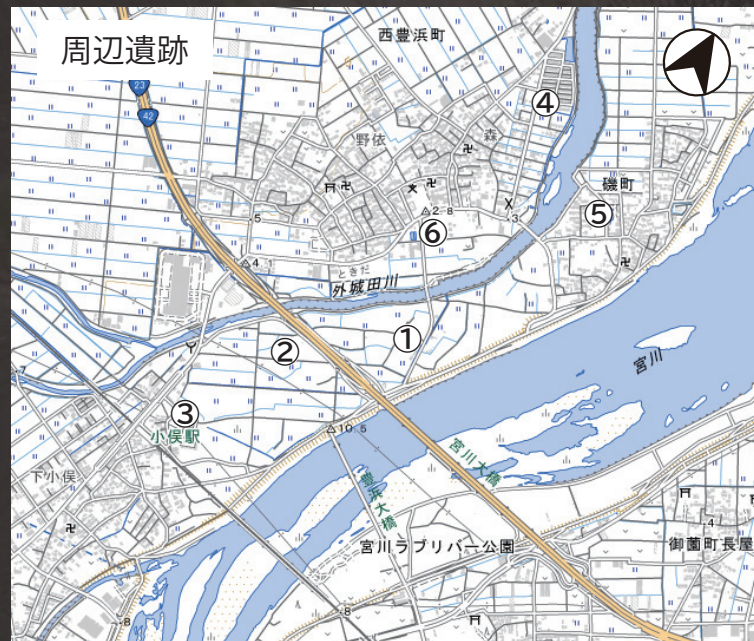
うるし原遺跡 U1-1区

弥生時代終わり頃から鎌倉時代までの遺構や遺物がみつかりました！

うるし原遺跡の発掘調査では、弥生時代終わり頃から古墳時代初め頃（約1,800年前）の土坑や溝がみつかったほか、流路跡から同時期の遺物が大量に出土しました。

また、平安時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物も検出されており、その周辺の井戸からは完形の山茶碗や刀の破片が出土しています。さらに、複数の遺構から平安時代の高級な土器である緑釉陶器の破片もみつっています。

このように、うるし原遺跡では弥生時代終わり頃から古墳時代初め頃と平安時代から鎌倉時代にかけて人々が活発に活動していたことがわかりました。



- ① うるし原遺跡
おおよぶ
- ② 大藪遺跡
- ③ はかまだ
袴田遺跡
- ④ ちょうづか
丁塚古墳
- ⑤ 磯神社
- ⑥ こみどうまえ
小御堂前遺跡

※国土地理院「明野 1 : 25,000」を用いて製作
※参考文献：伊勢市 2011 『伊勢市史』第6巻 考古編



二重口緑壺(北から)

浅い溝

調査区北側の浅い溝から約1,700～1,800年前の土師器が出土しました。

このうち、写真の二重口緑壺については同じ遺構から出土した土器と比較しても丁寧に文様が付けられていることから、お祭り等で使われた特別な土器の可能性があります。近くにお墓があったのかもしれませんが。

溝 1

浅い溝

井戸 3

井戸 2

井戸 1

掘立 1

掘立 2

掘立 1 (西から)

掘立柱建物 (掘立 1・2)

平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物が2棟見つかりました。

掘立1は南北2間×東西4間の建物で、調査区外の南側に続くと思われます。

掘立2は南北2間×東西2間の建物で、北側に続くと思われます。

弥生時代終末～古墳時代初頭

平安時代～鎌倉時代

井戸(井戸1～3)

3箇所で円形の井戸が見つかりました。底からは12世紀頃の山茶碗が出土しました。井戸1からは刀の破片も出土しています。